


主な学校感染症一覧

	病名	出席停止期間
第一種	<ul style="list-style-type: none"> ・エボラ出血熱 ・重症急性呼吸器症候群（SARS） ・南米出血熱 ・マールブルグ病 ・急性灰白髄炎（ポリオ） ・鳥インフルエンザ *他：新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症 	完全に治癒するまで

	病名	出席停止期間の基準	おもな症状	潜伏期間	好発時期
第二種	新型コロナウイルス感染症	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後、1日を経過するまで	発熱、頭痛、全身倦怠感、鼻づまり、くしゃみ、痰など	1～2日 最大7日	通年
	インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで	発熱、頭痛、全身倦怠感、鼻づまり、くしゃみ、痰など	1～2日 最大7日	冬
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間適正な抗菌薬治療が終了するまで	咳症状回復までに約3ヶ月を要する。初期は軽い風邪症状が約2週間続き、中期は重い咳発作が2～3週間続き、その後回復するまで2～3週間かかる。	1～2週間	夏
	麻疹（はしか）	解熱後3日を経過するまで	発熱、咳、鼻水等の風邪症状や結膜炎が2～4日続き、いったん解熱。発疹出現の1～2日前に口腔粘膜に白い斑点（コプリック斑）ができる。再度高熱が出現し発疹が出現する。	1～2週間	春～夏
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺、又は舌下腺の腫脹が始まった後5日を経過し、かつ全身状態が良好となるまで	耳の下（耳下腺）が腫れ、痛みがでる。左右とも腫れるが、片側だけの場合もある。1週間前後で腫れはひく。発熱することもあるが、3～5日程度。	2～3週間	冬～春
	風しん（3日はしか）	発疹が消失するまで	微熱、頭痛、倦怠感、鼻水、咳、紅斑、頸部リンパ節腫脹が出現。	2～3週間	春～夏
	水痘（みずぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで	全身に丘疹（盛り上がった紅い発疹）が出現。発疹は、丘疹→水疱→膿疱→痂皮（かさぶた）に変化し治癒。	2～3週間	冬～春
	咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消退した後2日を経過するまで	突然、高熱が4日～1週間続く。のどの腫れと結膜炎が出現。	1週間前後	夏～秋
	結核	病状により学校医等において感染の恐れがないと認めるまで	全身倦怠感、食欲不振、体重減少、微熱が長期間続き、咳や血痰が徐々に出現。	個々により様々	なし
	髄膜炎菌性髄膜炎		高熱、頭痛、項部硬直、傾眠、錯乱、昏睡が出現。	2～4日	なし

	病名	出席停止期間の基準	おもな症状	潜伏期間	好発時期
第三種	溶連菌感染症	 症状により、医師において感染の恐れがないと認められるまで	喉の痛み、38℃～39℃の高熱・嘔吐・腹痛・頭痛等。 体や手足に発疹ができ、舌はイチゴのように赤くブツブツになる。	2～7日	
	手足口病		発熱と咽頭痛が出現し、1～2日後、口腔内、手掌、足底、膝裏、足の付け根(臀部)等に痛みを伴う水疱性丘疹が7～10日続く。	3～5日	夏
	伝染性紅斑(りんご病)		両方の頬や腕に赤い斑点ができ、頬はリンゴのように丸く赤くなる。発疹がお尻や太ももあたりにできる。	1～2週間	冬～春
	ヘルパンギーナ		夏かぜのひとつ。39℃前後の高熱が2～3日続き、喉の奥に小さな水泡ができるため食欲がおち吐くこともある。	2～4日	夏
	感染性(ウイルス性)胃腸炎		ウイルスにより違いがあるが、主な症状は嘔吐・下痢・腹痛・発熱など。	ウイルスによって違う	
	マイコプラズマ感染症		発熱や頭痛をともなった気分不快が3～4日続く。咳が、最初は乾いた咳で痰は少量だが、重症化する。	2～3週間	
	流行性嘔吐下痢症		突然の嘔吐、下痢(クリーム～白色の便になることもある)。発熱する場合もある。	1～3日	冬
	アタマジラミ		頭(側頭部から後頭部が多い)に痒みができる。頭髪に、フケに似た楕円形の卵を産み付ける。接触により感染する。		夏
	伝染性軟疣腫(水いぼ)		脇の下・脇腹・股の付け根等に1～2mmの皮膚と同じ色の発疹ができ、しだいにおおきくなる。真ん中に凹みがあり、どんどん増えていく。		
	伝染性膿痂疹(とびひ)		透明な水泡ができ、しだいに白く濁っていく。水泡は破れやすくかゆみもあるため、かきむしる事で感染が広がる。	2～10日	夏

※出席停止期間は基準であり、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで出席停止となります。

「〇〇した後△日…」とは:「〇〇」の日をゼロ日、翌日から1日目と数えます。

例えば…「解熱後2日を経過するまで」

月曜に解熱(0日目)→火曜(解熱後1日目)→水曜(解熱後2日目)→木曜から登校可能